

# たより



平成26年9月5日発行  
伊勢市教育研究所  
(伊勢市小俣町元町540番地)

平成26年度夏季教職員研修講座

【伊藤美奈子先生を迎えて（奈良女子大学教授）】

## 演題

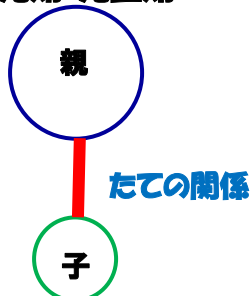
### 「思春期を生きる子どものころ」

7月24日（木）、ハートプラザみそので、奈良女子大学教授伊藤美奈子先生の講演会を開催しました。お話の概要をお知らせします。

#### 親子関係

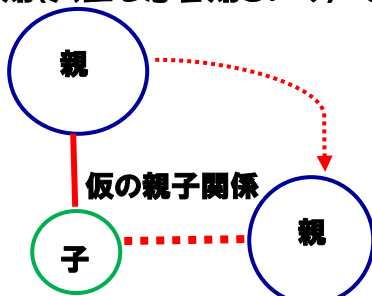
動物の子離れは、親が子どもに仕掛けます。時期が来ると、子どもを攻撃して親離れさせるのです。これに対して、人間の子離れは、子どもから仕掛けるのが特徴です。これが、思春期の反抗期です。

#### ① 幼児期・児童期



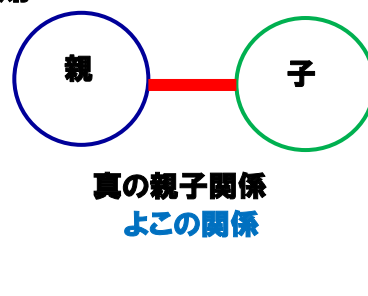
① 親が完全に子どもを支配する縦の関係で、安定している。

#### ② 青年期(入口を思春期という) ③ 成人期



② 親に反発し、親を否定するような言葉を投げ、親を上から引き摺り下ろそうとする。

そして、仮の親子関係ができる。



③ 互いに一人の人間として認めあえる関係になる。

反抗期がある子もない子もいます。心の中で親を客観視するだけの子どももいるなど、それぞれ形が違うので、反抗期があるかないかということは、それほど大切なことではありません。最終的に縦から横へと関係が変わることが大切です。

終わらない反抗期はありません。縦の関係は切れてしまっても、また横に結びなおすことができばよいのです。

## 友人関係

今は自由な時代だけに、価値観がいっぱいあり、自分で選ばなければならない。(自己責任)  
選択肢が少なかった昔に比べて、逆に大変な時代です。

自分の悩みを、安心できる人に言えると良い。

何も解決していなくても、横で相槌を打ってもらうだけで良い。

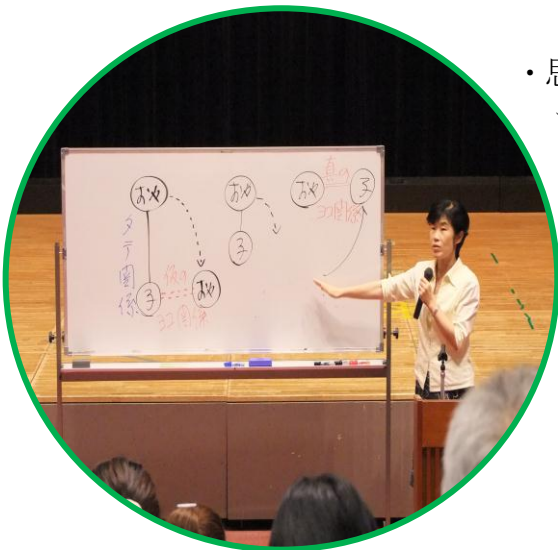
この人はわかってきている、誰かが分かってくれていると感じられることが大切です。

## 子どもとの関係

今の子には、だめなものはだめと言える「生きた壁」が大切。

## アンケートから(抜粋)

- ・反抗期は親子の関係をたつから横に変える大切な儀式のようなものという話が印象的だった。悩みや疲れがたまってしまうと行動化、身体化してあらわれてしまう。それを防ぐためにも言語化することの大切さがよくわかった。思春期の子どもは言語化が苦手であるので、何が言いたいのかなということ考えながらかかわっていききたい。
- ・反抗期(思春期)について整理することができた。冷静に生徒に接することができるような気がする。思春期の子どもを持つ保護者にも聞かせてほしい話が多々あった。ありがとうございました。



- ・思春期の特性について、丁寧に教えていただけてとてもわかりやすかったです。職場で生徒の自尊感情の低さについて、今まで話すことがあったのですが、その理由についても理解できたように思います。今日教えていただいたことを、生徒との関わりに活かさせられるように努力したいと思います。ありがとうございました。

- ・わかっているようでわかりにくい思春期のことを、できるだけわかりやすく伝えていただきました。思春期だけでなく青年期はいくつになっても脱することが難しいように感じました。人間は、子どもから関係を変えるようにしていることは納得できるように思います。
- ・思春期の子どもの特徴や子どもと関わる上でのポイント等、実際に先生が関わったケースを交えながら聞くことができ、分かりやすかったです。